

| | | | | | |
|-------|---|------|--|------------|----------------------|
| 事務事業名 | 幼児教育・保育にかかる保護者負担軽減事業 | 所属部 | 子ども政策局 | 所属課 | 子ども政策課 |
| 政策名 | 〈Ⅲ〉支えあい健やかに暮らせるまち〈保健・医療・福祉〉 | 所属G | 教育・保育グループ | 課長名 | 渡部 泰昌 |
| 施策名 | 〈25〉子育て支援の充実 | 担当者名 | 坂田 洋一 | 電話番号 | 40-1044 (内線) 2251 |
| 目的 | 対 象 A)子どもの保護者と産み育てたい夫婦 B)乳幼児・児童・生徒(0~18歳) 意 図 A)安心して子育てができる。 B)心身ともに健やかに育つ。 | 予算科目 | 会計 款 大事業 大事業 0:11502 業名 1:00572 業名 | 児童福祉総務管理事業 | 幼児教育・保育にかかる保護者負担軽減事業 |
| 基本事業名 | 〈073〉経済的支援の充実 | | | | |
| 目的 | 対 象 保護者等 意 図 子育てに係る経済的負担が軽減される。 | | | | |

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

| | |
|-------------------------------|---|
| ① 事業期間 | <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (R1 年度 ~) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (R元 年度 ~ R3 年度) |
| ② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述) | 令和元年10月施行の幼児教育・保育の無償化により、2号児(保育所籍)について、保育料に含まれていた副食費が保護者の実費負担となった。国の制度では年収360万円未満相当の世帯は、その副食費も無償とすることとされており、市では、それを拡充し年収に関わらず、副食費を無償とした。子育て世代の経済的負担を軽減することで、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進する。 また、保育所入所要件を満たし、かつ認可外施設等に通う子を持つ保護者に、制度の範囲内で施設等利用費を支給する(償還払い)。 【副食費にかかるもの】 対象者:市内私立保育所及び市在住で市外施設へ通う子を持つ保護者 補助額:1人4,500円/月を上限 |

(2) 事務事業の手段・指標

| | | | | | | |
|----|---|--|-----------|-----------|----------|----------|
| 手段 | ① 主な活動 | | | | | |
| | R元年度実績(R元年度に行った主な活動) 私立保育所に対し、対象児数に応じ補助金を交付する。 市在住者の対象者について、補助金を交付する(償還払い)。 | R2年度計画(R2年度に計画する主な活動) 私立保育所に対し、対象児数に応じ補助金を交付する。 市在住者の対象者について、補助金を交付する(償還払い)。 | | | | |
| | ② 活動指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
| | ア 市内私立保育所数 | 施設 | | | 4 | 4 |
| | イ 補助金交付申請数(個人) | 人 | | | 8 | 15 |
| | ウ | | | | | |
| | エ | | | | | |

(3) 事務事業の目的・指標

| | | | | | | | |
|----|--|----------------------------------|----|-----------|-----------|----------|----------|
| 目的 | ① 対象(誰、何を対象にしているのか) | ③ 対象指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
| | ・私立認可保育所へ通う満3歳以上児を持つ保護者 ・市在住者で市外施設等を利用する者(幼児教育保育無償化対象者)を持つ保護者 | ア 私立保育所入所者のうち市免除対象者数(延べ) | 人 | | | 615 | 1,308 |
| | ② 意図(対象がどのような状態になるのか) | ④ 成果指標 | 単位 | H29年度(実績) | H30年度(実績) | R元年度(実績) | R2年度(計画) |
| | 子育て環境に満足する | ア 子育て支援に関する行政サービスが整っていると感じる市民の割合 | % | | | 70.2 | 76.0 |
| | | イ | | | | | |
| | | ウ | | | | | |

(4) 事務事業のコスト

| | | | | | | |
|---|----------------|----|-----------|-----------|----------|----------|
| ① 事業費の内訳(1年度決算) | ② コストの推移 | 単位 | H29年度(決算) | H30年度(決算) | R元年度(決算) | R2年度(計画) |
| 令和元年度補助実績額2,939,952円 | 財源内訳 | 千円 | | | 9 | 745 |
| 【財源内訳】 国支出金:9千円(子育てのための施設等利用給付交付金) 県支出金:2,872千円(しまね結婚・子育て市町村交付金) 県支出金:4千円(子育てのための施設等利用給付交付金) | 国庫支出金 | 千円 | | | 2,876 | 2,372 |
| | 県支出金 | 千円 | | | | |
| | 地方債 | 千円 | | | | |
| | その他 | 千円 | | | | |
| | 一般財源 | 千円 | | | 55 | 3,903 |
| | 事業費計(A) | 千円 | | | 2,940 | 7,020 |
| | 人件費 | 人 | | | 1 | |
| | 正規職員従事人数 | 人 | | | 30 | |
| | 延べ業務時間 | 時間 | | | 127 | |
| | 人件費計(B) | 千円 | | | 127 | |
| | トータルコスト(A)+(B) | 千円 | | | 3,067 | |

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

| | | |
|---|--|--|
| ① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?) | ② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) | ③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?) |
| 第2期子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査において、「子育てしやすい社会の実現のために必要と思う支援策」の設問に対する回答として最も多く挙げられたのが、「子育てに伴う経済的負担を軽減する」(79.6%:就学前保護者1,232名から回答)という結果であった。このことから保護者にとっては依然として経済的負担の軽減に対するニーズが高いことが伺える。 | 令和元年度から補助事業を開始。 | 主食費を含めた無償にすべきとの意見がある。 |

2 事後評価【SEE】

| | | |
|-------------------|--|---|
| A 目的 妥当性 | ① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている *余地がある場合⇒ | 見直し余地があるとする理由 |
| | ② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である *余地がある場合⇒ | |
| | ③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である *余地がある場合⇒ | |
| B 有効性 | ④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない | 理由 現状以上はない。 |
| | ⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 | 理由 副食費を無料としているものが有料となり、保護者負担の増加となる。また、私立保育所には、食材料費相当額(1人あたり4,500円/月を上限)を補助しており、給食の質を担保しているが、事業廃止をすると施設間で給食の質にバラつきが出る可能性がある。 |
| | ⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合⇒ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない | 理由 (具体的な手段や類似事業名) 他に類似事業はない。 |
| C 効率性 | ⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない | 理由 各私立保育所において食材料を調達しているため、給食センター調理の直営施設と違いスケールメリットが得られにくい。 |
| | ⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない | 理由 市が直接行う補助であり削減の余地はない。 |
| D 公平性 | ⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である | 理由 3~5歳児クラスに在籍する市在住者すべて副食費を無料の対象者である。 |
| 評価 の 総 括 | ① 1次評価者としての評価結果 | ② 1次評価結果の総括(根拠と理由) |
| | A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり | 子育て世帯にとって経済的負担の軽減が図られている。 |

3 今後の方向性【PLAN】

| ① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) | ② 改革・改善による期待成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----|----|-----|--|--|----|----|----|----|----|--|--|--|----|--|---|---|----|--|---|---|
| 子育てに伴う経済的負担の軽減につながり保護者のニーズにかなっており継続する必要がある。 | <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p style="font-size: small;">廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p> | | | コスト | | | 削減 | 維持 | 増加 | 成果 | 向上 | | | | 維持 | | ● | × | 低下 | | × | × |
| | | | | コスト | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 削減 | 維持 | 増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成果 | 向上 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 維持 | | ● | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 低下 | | × | × | | | | | | | | | | | | | | | | | | |